

次といふもの、孫に逢ひて、そのつるや西瓜上戸の花の種、

〔近世奇跡考五〕地黄坊樽次酒戰

慶安の頃江戸大塚に地黄坊樽次と云人あり、實名英木春朝、古今稀有の大酒にて、酒友門人甚おほく、其頃名高き人也、○中略

おなじ頃武州大師河原に、大蛇丸底深と云富農あり、樽次におとらざる大酒にて、酒友門人甚おく名高き人也、其子孫今に榮ふ、○中略

又おなじ頃鎌倉に甚鐵坊常赤と云者あり、もとは真言宗の僧なりしが、還俗し樽次に醫を學びて業とす、樽次底深につゝきたる大酒也、○中略

月庵にて大師川原甚哲と酒戰、勝劣なしと記せらるは此心

坊が  
べし、事な

酒戰慶安の頃、大盃をもつて酒量をたゝかはしめて、勝劣をわかつたはむれなり、是に大居目禮古佛の

座などいふ法禮あるよ

し、水鳥記に見ゆ、○中略

水鳥記 戰の戲書もあり、樽次自作、底深と酒合

〔擁書漫筆三〕文化十二年十月廿一日、千住宿壹丁目にすめる中屋六右衛門が家にて、六十の年賀に酒の呑くらべせり、その酒戰記一巻畫一鋪あり、今要を摭て記す。

伊勢屋言慶 新吉原中の町にすめり、齡六十二、三升五合餘を飲

大坂屋長兵衛 馬喰町に住、齡四十

市兵衛 千住かへり、萬壽に住、萬壽無量杯にて三杯呑け

松勘 千住宿人也、五合盛のいづくしま杯、七合の丹頂鶴などにて、ことくのみけりとぞ、

佐兵衛 下野小山人、七升五

佐兵衛合のみけりとなん、

大野屋茂兵衛 新吉原中の町に萬壽無量杯がて父也、